

別紙様式1

記入例と注意事項

連合農学研究科教員資格審査個人調書

(令和 年 月 日作成)

希 望 す る 専 攻 等	専攻 大講座（専門分野） (教育研究分野の内容)		
希 望 す る 申 請 資 格	☐ 主指導教員資格 連大指導教員資格の有無 ☐ 有 ☐ 無 ☐ 指導教員資格		
人文社会科学系教員資格審査の適用 ☐			
ふ り が な 氏 名	(才) 昭和 年 月 日生		
所 属 部 局 講 座 等 ・ 職	大学		
担当修士課程	研究科 専攻（分野等：）		
学歴・職歴（学歴は大学学部卒業から記入し、職歴は学歴の次に区別して記入） 年 月 事 項 学 歴 平成 3 年 3 月 茨城大学農学部〇〇学科 卒業 平成 3 年 4 月 茨城大学大学院農学研究科 修士課程 入学 平成 3 年 3 月 茨城工科大学大学院農学研究科 修士課程 修了 平成 5 年 4 月 東京農工大学大学院連合農学研究科 博士課程 入学 平成 8 年 3 月 東京農工大学大学院連合農学研究科 博士課程 修了 職 歴 平成 8 年 3 月 宇都宮大学助手 農学部 平成 10 年 4 月 ワシントン州立大学 〇〇学部〇〇研究員 兼職（平成 11 年 3 月まで） 平成 18 年 4 月 宇都宮大学助教授 農学部 平成 19 年 4 月 宇都宮大学准教授 農学部（職階名変更） 平成 19 年 4 月 東京農工大学准教授 大学院連合農学研究科 兼職（現在に至る） ※担当の発令は、茨城大学・宇都宮大学の教員は【兼職】、東京農工大学の教員は【兼務】です。			
業 績 概 要	学位の名称 大学 博士（〇〇学）（平成 年 月取得）		
	学位論文名		
	論文・著書	論 文 編（最近 5 年 編）・著書 編（最近 5 年 編） その他 編（最近 5 年 編）	
	学生指導実績	修士論文指導（補助）学生数 5(10)人	博士論文指導（補助）学生数 2(3)人
	学会賞等の名称		指導学生数には主指導学生人数を記し、指導補助（副指導）学生人数は外数で（ ）内に記す。
学会及び社会 における活動			

1. 作成年月日についての注意事項

最初は実際に調書を作成した日付を記入する。

審査の過程で（審査委員等の指示により）修正を加えた場合には、修正した日付に改める。

氏名欄の右欄にある年齢は、作成日現在での年齢を記載する。

2. 希望する専攻等の欄の注意事項

- 1) 希望する専攻等の欄には、「国立大学法人東京農工大学学則」第 70 条別表 5 の 3 の専攻及び大講座の中から、所属しようとするものを記入する。
- 2) 「専門分野」は 10 文字程度で簡潔に、「教育研究分野の内容」は、研究テーマを含めて、学生の研究指導を行う分野を具体的に簡潔に記入する。

3. 学歴・職歴の欄の注意事項

- 1) 職歴の欄には、部局・職名等についても明記する。
- 2) 東京農工大学大学院連合農学研究科の担当に係る発令については、茨城大学・宇都宮大学の教員は【兼職】、東京農工大学の教員は【兼務】と記入する。

4. 業績概要欄の注意事項

- 1) 論文の欄には、別途定める審査制のある学術誌（※）に発表された原著論文の総数、及び最近 5 ヶ年の数（内数）を記入する。
- 2) 著書の欄には、学術著書の総数、及び最近 5 ヶ年の数（内数）を記入する。
- 3) その他の欄には、論文及び著書に含まれない業績（総説、解説、報告や審査制のない雑誌に発表された原著論文）の総数、及び最近 5 ヶ年の数（内数）を記入する。
- 4) 最近 5 ヶ年の定義としては、夏（原則 7 月）に審査を受ける場合には審査の 5 年前の 4 月 1 日から審査を受ける年の 3 月末まで、冬（原則 2～3 月）に審査を受ける場合には審査の 5 年前の 10 月 1 日から審査を受ける前年の 9 月末までに公表あるいは受理されたものとする。（例：2024 年 7 月に審査を受ける場合には 2019 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日の間に公表あるいは受理されたもの、2025 年 3 月に審査を受ける場合には 2019 年 10 月 1 日から 2024 年 9 月 30 日までに公表あるいは受理されたものが該当する。）
- 5) 論文・著書・その他の欄で算入することができるのは、既発表のもの及び受理されたものに限り、投稿準備中のものや投稿済審査中のものについては算入することができない。
- 6) 論文・著書・その他の欄の数字は、次ページ以降の業績一覧に掲載された論文等の数と一致させる。
- 7) 学生指導実績について、修士論文、博士論文ごとに主指導学生人数を記す。指導補助（副指導）学生人数は外数で（）内に記す。
- 8) 学会賞等の名称の欄には、受賞した賞名・学会等名称・受賞年月を記入する。

5. 学会及び社会における活動欄の注意事項

- 1) 主な所属学会名及び役職名等を記入する。（役職名は実績がある場合）
- 2) 官公庁、自治体等で担当している委員等を記入する。（実績がある場合）
- 3) NGO、NPO 等での活動を記入する。（実績がある場合）

※「教員資格審査及び教員資格再審査に係る学術誌の認定基準の申合せ」（平成 29 年 3 月 1 日第 94 回教授会承認）参照。人文社会科学系教員資格審査については、「人文社会科学系教員資格審査における業績評価についての申合せ」（平成 29 年 3 月 1 日第 94 回教授会承認）参照。

(1) 教育研究分野に関する主な業績 (このページ内におさめること)

(著者、題目、学術誌名 (発行者等)、巻 (号)、開始及び終了のページ、発表年の順に記載)
論文

- ◆1. Okura F., Budiasa I W., Kato T. “Exploring a Balinese irrigation water management system using agent-based modeling and game theory,” *Agricultural Water Management* (Elsevier), 274, 107951 (2022), doi:10.1016/j.agwat.2022.107951. (論文番号で掲載の場合の書き方)
- ◆2. Omonov A., Fitriyah A., Kato T., Kawabata Y. ©“Comparison of soil salinity indices based on satellite imagery analysis in Syrdarya province, Uzbekistan,” *Journal of Arid Land Studies* (日本砂漠学会), 32-S, 155-158 (2022), doi:10.14976/jals.32.S_155. (ページ数で掲載の場合の書き方)
- ◆3. Godson-Amamoo S., Kato T., Katsura K. ©“Empirical Setting of the Water Stressed Baseline Increases the Uncertainty of the Crop Water Stress Index in a Humid Temperate Climate in Different Water Regimes,” *Water* (MDPI), 14(12), 1833 (2022), doi:10.3390/w14121833.
- ◆4. Anika N., Kato T. ©“River flow modeling using Artificial Neural Network: A case study on Sumani watershed, Indonesia,” *PERTANIKA, Journal of Science and Technology* (UPM Press), 27(S1), 179-188 (2019). (doi が無い場合省略可)
- ◆5. 大倉 芙美, 加藤 亮, イ ワヤン ブディアサ, 關野 伸之 ©「エージェントベースモデルの水田灌漑地区の水配分システムへの適用 —インドネシア, バリ島のスバックを事例として—」, 水文水資源学会論文集 (水文水資源学会), 31(5), 337-349 (2018), doi:10.3178/jjshwr.31.337. (条件を満たす雑誌に発表した和文論文も記載可)

●
●
●

申請者にアンダーライン
過去 5 年間に発表した論文の番号に黒ひし形(◆)印
Corresponding Author 論文の頭に◎印
国際共著論文の頭に★印 (任意)
doi がある論文は記すこと
受理されていない論文は記載不可

- 16. Liyantono, Kato T., Kuroda H., Yoshida K. ©“GIS analysis of conjunctive water resource use in Nganjuk district, east Java, Indonesia,” *Paddy and Water Environment* (Springer), 11, 193-205 (2013).
- 17. Kato T., Kuroda H., Nakasone H. “Runoff characteristics of nutrients from an agricultural watershed with intensive livestock production,” *Journal of Hydrology* (Elsevier), 368(1-4), 79-87 (2009).
- 18. 加藤 亮, 宗村 広昭, 大澤 和敏, 黒田 久雄 「谷津農業集水域における降雨時の硝酸態窒素流出特性」, 農業農村工学会論文集 (農業農村工学会), 261, 49-55 (2009), doi:10.11408/jsidre.77.281.
- 19. Kato T., Kuroda H., Nakasone H. “A distributed water quality tank model for nitrogen load reduction by artificial wetlands,” *Journal of Water and Environment Technology* (日本水環境学会), 3(2), 235-242(2006), doi:10.2965/jwet.2005.235.
- 20. 加藤 亮, 中村 良太 「人口・土地利用の汚濁源変動に SD モデルを用いた水質汚濁の長期分析」, 農業土木学会論文集 (農業土木学会), 192, 113-122 (1997), doi:10.11408/jsidre1965.1997.837.
(発行当時の出版社名を記載。この雑誌は現在, 農業農村工学会が発行)

主指導教員資格の場合には 20 報以上 (過去 5 年間発表のもの 5 報以上を含む)、指導教員資格の場合には 10 報以上 (うち過去 5 年間発表のもの 3 報以上含む) をこのページに記載すること。
必要に応じて、小さな文字 (9 pt 位まで) を用いても良い。

6. (1) 教育研究分野に関する主な業績欄の注意事項

- 1) このページには、前のページの業績概要の「論文・著書」欄に算入した業績のうち、最近 5 年の業績を含む主な業績を記載する。このページに記載しなかった業績は、次のページ以降に記載する。
- 2) 「(1) 教育研究分野に関する主な業績」への記入については、以下を配慮すること。連合農学研究科の資格審査委員会および代議員会では、このページの「(1) 教育研究分野に関する主な業績」と次ページ以降の「(2) 前記 (1) 以外の主な業績」の双方を用いて審査を行うが、教授会、全学の教員評価機構、教育研究評議会では「(1) 教育研究分野に関する主な業績」のみを資料として審査が行われる。したがって、「(1) 教育研究分野に関する主な業績」を見るだけで資格要件が満たされていることが確認できるようにまとめることが好ましい。特に、最近 5 年間の資格要件（主指導教員資格 5 編以上、指導教員資格 3 編以上）については、このページのみで確実に確認できるように配慮する。
- 3) 業績は、論文、著書、その他に区分して、それぞれ発表年が新しい順で記載する。さらに過去 5 年間に発表した論文の番号頭に黒ひし形(◆)印を付けること。
- 4) 共著の場合は、本人の氏名を含めてすべての著者の氏名を、論文、著書等に記載された順で記入し、本人の名前にアンダーラインを引く。**責任著者論文の頭に◎印を付記する。国際共著論文の頭に★印を付記する。(★印は任意)。**
- 5) 英文論文の場合、著者名は姓名の順で記載する。
- 6) 英文論文のタイトルで大文字とするのは、タイトルの最初の文字と固有名詞の最初の文字など大文字で記すこととなっている文字とする。
- 7) 英文の雑誌名はイタリックで記載する。和文の雑誌名はイタリックにする必要はない。
- 8) 巻（号）の（号）は、省略可。
- 9) 冊子体が存在しない電子ジャーナルやビデオジャーナルの場合には、「開始及び終了のページ」の代わりに当該論文の識別番号等（DOI でも可）を記載する。（前ページの 1. や 3. を参照）。
- 10) DOI がある論文は「doi:10.～」の形で記すこと。
- 11) 発行者等には、その雑誌を発行している学会名、出版社名等を必ず記載する。（学会が編集して出版社を通じて発行しているような場合には、少なくとも一方を記載する。両者を記載しても差し支えない。）

(2) 前記(1)以外の主な業績

(教育研究分野に関する主な業績欄に記載したものを除き、著者、題目、学術誌名(発行者等)、巻(号)、開始及び終了のページ、発表年の順に記載)

論文((1)から引き続きの場合には連番)

21. 加藤亮, 中村良太 「知識ベースシステムモデルによる事業計画策定過程のシミュレーション」, 農業土木学会論文集(農業土木学会), 190, 87-95(1997), doi:10.11408/jsidre1965.1997.533.

・
・
・

著書

- ◆1. 加藤亮「SDGs」, (分担執筆, 水文水資源学会編, 水文水資源ハンドブック, 「SDGs」pp564-569), 朝倉書店, 2022.9.1. (和書, 分担執筆の場合)
- ◆2. 加藤亮「農業水利とは」, 「農業水利システム」, (分担執筆, 飯田俊彰, 加藤亮・編, 農業水利学, 第1章 pp3-8, 第2章 pp13-25), 文永堂出版, 2021.4.20.
3. Kato T., Nakano K., Iida T. “Analysis of Value Co-creation Between Farmers and Land Improvement District in Japan, Thorough Irrigation Service Improvement by Good Water Quality,” in “Serviceology for Designing the Future,” edited by Maeno T., Sawatani Y., Hara T., pp403-415, Springer Japan, 2016. (洋書, 分担執筆の場合)

・
・
・

その他

- 1.

・
・
・